

第3学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 自分の作った作品に喜びを感じ、他者に伝えたいという思いがある。
 - 材料や用具に興味を持ち、「もっとこうしたい」「工夫したい」という思いを持って意欲的に取り組むことができる。
- 課題**
- ▼ 自分の取り組みを振り返り、言葉にする力が弱い。
 - ▼ 用具を適切に扱い、表し方を工夫する力が弱い。
 - ▼ 個人の力で考え、表現する時間（集中して取り組む時間）を確保する必要。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを見つける力
- ◇ 材料や用具の特徴を生かして、自分の表したいことを表す力
- ◇ 用具の使い方を理解し、画材や材料の特性を生かして表現する力

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- めあてを具体的に提示し、その日のゴールを明確にする。
- 材料や用具の特徴が伝わるように、素材や表現方法を比べて表現の多様さを示す。

言語活動の工夫

- 造形的な見方を提示し振り返りなどで、形や色の特徴を言葉で表す機会を増やす。
- グループになって他者の作品の魅力を言葉で伝える。

I C T活用の工夫

- パワーポイントで情報を整理し、作業過程を分かりやすく表示する。
- 実物投影機を使って制作方法や制作ポイントを伝える。

課題解決力育成の工夫

- 「発見タイム」を設け、友達の作品の良さや工夫を見付け、自分の制作に生かしていく。
- 自分のイメージを周りの友達や教員に共有しながら、共に考えていくように促す。

達成目標

- 感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを見つけることができる。
- 材料や用具の特徴を生かして、自分の表したいことを表すことができる。
- 用具の使い方を理解し、画材や材料の特性を生かして表現することができる。